

## 肛門管にかかる直腸腫瘍病変に対する内視鏡治療成績の検討

研究対象:2006年4月～2014年11月の間、当院で内視鏡治療が施行された肛門管に進展している直腸腺腫、早期がんを含む肛門近傍直腸病変。

研究の概要:直腸の腺腫、がんの治療では肛門機能の温存がQOLと密接に関係しており、内視鏡治療による根治切除の恩恵は非常に大きいと考えられています。従来の内視鏡的粘膜切除術に加えて近年、内視鏡的粘膜下層剥離術)が行われる様になり、大型の表面型直腸腫瘍、早期大がんに対しても内視鏡的な根治切除が可能となりました。

さらに肛門管に進展する直腸病変においてもこれらの内視鏡治療が施行されていますが、それらの病変に対する内視鏡治療の安全性と有効性についての報告は少なく、これらを明らかにすることで日常診療に非常に有用な知見が得られると考えています。

目的:肛門管に進展した直腸病変に対する内視鏡治療の安全性と有効性を明らかにすることです。

方法:

本研究は、国立がん研究センター東病院に保管されている対象患者さんの診療情報(診療録、看護記録、内視鏡画像・所見記録、CT画像)を収集します。情報収集や解析の作業に当たる人員は医師のみです。

個人情報保護に関する配慮:

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されない方法で情報を収集します。個人情報が院外に出ることはありません。ご希望があれば、診療録は研究に利用しませんのでいつでも次の連絡先まで申し出てください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1

国立がん研究センター東病院 消化管内科・消化管内視鏡科 池松弘朗

FAX 04-7131-4724/TEL 04-7133-1111